

ばってん

事務長会報第36号

平成26年10月1日

長崎県公立学校事務長会
長崎西高等学校内

〒852-8014

長崎県長崎市竹の久保町12-9

電話 (095) 861-5106



ホテル **モントビル長崎**
TEL095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

良き仲間は財産だ!!

副会長（長崎北高等学校） 濱野 亨

昭和55年4月初任校である対馬の小学校へ赴任以来、早いもので35年あまりの歳月が流れました。

ガリ版印刷が終焉を迎える時期で、手動・電動和文タイプライターが主流へと移行する時代だったと記憶しています。ガッシャンガッシャンという大きな音が印象的で、漢字の配置を覚えようと頑張ったものでした。対馬5級地の小学校には当然コピー機など無く、卒業証明書の写しは手書きで作成し、証明印を押印し提出したものです。

赴任旅費の審査会は、厳原まで2泊3日の出張。数週後に昇級予定表審査会で厳原2泊3日。旅費、へき地特昇・へき地手当・準へき地手当、12月の給与改訂。併せて、島内の小中学校事務職員は同年代の者ばかり、という良き時代を過ごしたものでした。

長崎市内の中学校に勤務後、理由は全く分からないのですが、平成元年4月長崎市の教育委員会へ異動となり、以後8年間勤務することとなります。

当時は、〇〇天皇と呼ばれていた教育長さんがおられ、私自身右も左も全く分からない職場で、かつその事務量たるや未熟者の私には想像を絶するもので、数日間で一気に体重4kg減少、頭の真ん中には大きな円形脱毛症、突然の激痛を伴い尿道結石が発症、という体調の異変が起こったことを鮮明に覚えています。

皆さんご存じのとおり、当時の教育界は絶対的な縦社会であり、上司の号令一つで、昼も夜も休日も金魚の糞のようにくっついてまわり、お世話をし、上司が帰宅するまでが我々平職員の務めであるという認識で頑張ったものでした。夜残業中にも平気で職場に電話が入り「出てこい。」との号令、断ろうものなら…、皆さんもご経験はおありだろうと思います。

数年後、教育長が交替となり、市の行政畑出身であるA教育長が就任されました。「仕事と酒」の方で、武勇伝は数多く聞かされたものでした。私自身も体調はすっかり回復し市教委業務にもだいふ慣れ、仕事上数多くの市役所職員と仲良しになり、付き合うなかで信頼関係が構築できた時期であったと思います。

ある日、市役所職員数名と夜の会合（いわゆる飲み会）を

していたところ、偶然にその店にA教育長とB部長、私の直属の上司であるC課長が入ってこられました。私達は当然、縦社会の慣例に従い席を立ち挨拶をし、なにかお世話をという体制をとっていました。その様子を見たA教育長は、「俺たちみたいな年寄りに気を遣わんでよかけん。同世代の者ともっと付き合わんね。信頼できる良か仲間ば作らんね。それが君の財産になるとばい！」

よほど感動したのか嬉しかったのか、その時の場面をずっと覚えています。

そして、A教育長の助言により交友を深めた仲間達は、いまや役所の幹部職員となっているのですが、公私にかかわらず、相談事やお願いにはすぐに動いてくれ、暫く音信不通でも連絡するとすぐに足を向け助けてくれたりする、本当に私の財産となっています。

この30数年間、様々な出会いがあり、上司・仲間・メンバーに恵まれ、貴重な財産に支えられ仕事を続けてこられたことに感謝です。

最後に、「ばってん」の表紙ページに掲載されるとのことで、仕事の話の一つだけ書かせてください。

事務長になって4校目、6年目のシーズンを迎えています。ここ数年、年度初め事務室の職員へ対し、第一声としてお願いすることがあります。私自身の信条として日々努めていることなのですが、「明るく！楽しく！元気よく！」ということです。

学校という事業所の窓口とし、外部者への電話・来客対応だけでなく、同僚の職員へ対しても、「良い関係を構築するための最も効果的な方策である。」という信念の元、職員へもお願いしています。

職員の定数減や、事務の複雑化・煩雑化により、事務室内においてもお互いのコミュニケーションが希薄になりつつあることが感じられる今、「明るく！楽しく！元気よく！」。残りの2年半、より良い事務室作りを目指して頑張りたいと思います。



退職を前にして……

大村城南高等学校 片山 英典



今年度末で退職と頭では解っていましたが、今この原稿を書きながら改めてその事を実感しているところです。

昭和52年の11月の始めに、教職員課から「長崎西高に面接に行ってください」との電話

で私の事務職員生活は始まり、その後10校の学校を経験しました。

特に印象に残っているのは、大村高校と島原高校です。

大村高校では赴任した翌年から校舎改築が始まり旧校舎の解体から新校舎が出来上がるまで関わる事が出来た事です。実は、私は大村高校出身で、旧校舎の解体から新校舎の完成までつぶさにみる事ができたのは同窓会員多しといえども唯一私だけだというのが密かな私の自慢です。

島原高校では、校舎の大規模改修がありました。赴任したら5人の事務職員のうち4人が転勤者で右も左も解らないと

いう状態で改修工事が始まり、超多忙な日々でしたが、どうか卒業式前までに環境整備まで終えることができました。

(この時、初めて気づいたのですが大村高校の旧校舎と島原高校の校舎の造りは全く同じでした。)

この二校を経験できたことで、先生方との連絡がうまくいっていない場合、計画通り事が進まないばかりでなく二重に手間が係ることになり、いかに先生方とのコミュニケーションが大切か実感させられました。それ以降先生方とのコミュニケーションを取るよう心掛けていましたが、それは自分が思っているだけで相手がどう思っているかは別問題です。転勤の挨拶では、毎回「口が悪くてすみませんでした。でもほんとうは事務室で一番優しい男だと思っています。次お会いする機会がありましたら、あの男は、ほんとうは優しい男なんだと思い出してください。」というのが恒例でした。

その他の学校においても素晴らしい先生方・先輩・同僚・後輩に出会い、そして助けられ、退職まであと8ヶ月となりました。後しばらくお世話になりますがよろしくお祈りします。



イヌと「じむ」との個人的関係

西彼農業高等学校 朝長 芳郎



我が家に犬がやって来たのは、平成8年。奇しくも西彼農業高校に最初に勤務していた5月の事でした。当日はM主任にパソコンの設定をお願いし、わざわざ家まで来てもらっていました。

いつもなら連休中でもあり、ビールを飲んで泊まってもらう予定でしたが……妻と待望していた子犬です。早々と帰っていただくことに……すみません。

犬の成長は人間の数倍早く、1年も経たぬうちに体重は30kgを超えました。教育を本格的にしないと大変と思い、犬の教本を買いあさりました。躰のプランを立て(P)、何回も同じ事を繰り返してやってみて(D)、どれだけできるようになったかチェックし(C)、また別の芸を仕込み(A)と、立派なマネジメントサイクルを実証していきました。振り返って職場でも、同じように実践していたらと今更ながら悔やまれます。

数年がたち勤務校も変わりました。ラグビー観戦や練習後のグラウンド点検も兼ねて?犬を伴い学校へよく出かけました。ラグビー部の皆さんのおかげで、犬と子ども家族で「聖地花園」へ連れていってもらいました。そこで皆にかわい

がってもらった子供達も、いつしか親に言えない悩みや、プレッシャーを抱えるようになりました。時々犬のベッドに潜り込み、共に寝ていたのはカウンセリングでも受けていたのでしょうか…。職員とのコミュニケーションやアイコンタクトでやる気を引き出すコツを聞いておけばよかったとつくづく思います。

事務長として赴任した離島は、美しく穏やかな土地柄で、ゆったりとした散歩は妻の楽しみとなりました。いつしか犬の信頼は妻へと移り、私は「No.2」の座に甘んじることとなりました。アフター5では、よく「1階の会」と称し、S実習助手さん、M主任主事、Y主事、養護の先生などが集まり、犬を囲んで楽しい時間を過ごしました。犬と妻とのおかげです。感謝・感謝!

前任の農業高校では、老境に入り艶のない犬が、わがままで頑固となり、なにかと世話がかかるようになりました。物忘れも加わった現在の自分と通ずるところとなり、事務室の皆さんには公私にわたりご迷惑をおかけしてしまっ反省しきりです。

犬と共に過ごした16年間でしたが、教育をしたつもりが、実は私の方が色々教わった事が多かったように思います。2年前に大往生いたしました。我が家にとっては、永遠の2歳児、宝物でした。時々夫婦で思い出しては、今も笑わせてもらっている存在です。



仕事の喜びと夢の大切さ

長崎特別支援学校 高木七恵

相次ぐ台風の直撃を免れて、ほっとしていた頃、予想外の「ばってん」の原稿依頼が到来しました。困惑しながら開いた「ばってん」のバックナンバーでしたが、そこには先輩方の珠玉の言葉があふれていました。

「ばってん」第24号では、現在、事務長会長をされているあの方も、事務長1年目の時は、こんなことを考えておられたのだと知り、ちょっと嬉しくなったり、第26号の志水事務長さんの「ウルウルウル」では“そうそう、だから学校現場は楽しいですね！”と共感したり。第20号の村中事務長さんの「人は財産である。仕事の基本を見直せ。等々」のお言葉にも出会えて良かったと思いました。

特に心に残ったのは、第26号の島原農業高等学校長龍山不二男先生の「事務長が変われば学校が変わる」です。「私は事務職員のやる気は事務長次第だと思います。目標を掲げ、悲観論や危機感でなく明日への希望を語り、職員を使うのではなく動かしていると感ずることがあります。」そして、校長（学校）が求める理想の事務長像が続きます。行動力があり周囲への気配りを忘れない事務長さんに絶大な信頼を置く校長さん、こんな学校で学べる生徒はしあわせです。私が尊敬する事務長さん方も、やはり目標や夢を持っておられました。

又、第17号の長崎西高等学校長 石井勝典先生の「遊びという名の志」では、生徒のために仕事をする事の喜び、仕事を楽しめるわが身の幸せを語っておられます。根っからの教育者、仕事人の先生でした。私達は、膨大な時間を仕事に費やしているのですから、楽しんでできれば自分の人生も、より楽しいし、周りにも良い影響を与えます。ところが、周りをみまわすと、特に若い人ほど仕事がおもしろくない、きつい、校種を変わりたいと思っている人が多く、残念でなりません。

確かに、年々増える事務量とその煩雑さ、減る人手と苦しいことは多いですが、いろいろな喜びにも出会えます。

すばらしい人との出会いに感激し、自分には困難と思われた仕事をやり遂げた時に、感謝と高揚感を感じ、生徒が喜ぶ姿や成長していく姿を側でみれる事に幸せを感じてきました。これで給料をもらえる学校事務はとても素敵な仕事だと思っています。

仕事へのモチベーションを高めることが、事務の効率化や職員のメンタルヘルスに大きくかかわってきます。いかに仕事の喜びを後輩に伝えていくかが課題です。

最後に、私が赴任した長崎特別支援学校をご紹介します。本校では、肢体不自由の子ども達が、日々自立訓練や学習に取り組んでいます。自宅で寝たきりだったお子さんが、学校に来ることで先生や友達と交わり大きく成長しています。やはり人は人と交わることで一番成長するんですね、本当に笑顔が増えましたと保護者が嬉しそうに話してくれました。

先生方の研究熱心さにも頭が下がります。緊急時対応訓練時など、その真剣さと迫力には見ているこちらが緊張する程



です。少しでも子どもが興味を持つような工夫や励ましを行い、専門家に自立訓練について最新の知識を学びながら子どもと接するときは明るく優しい。

今、保護者や地域の信頼を得て、入学希望者が増えています。又、手足が不自由な子どもにも自分でタブレット操作をさせたいという思いから、子どもひとりひとりに適したスイッチなどを職員が工夫しながら手作りで作成しています。電工の知識がない素人なので、今回、工業高校の先生にもアドバイスをいただいたのですが、今後、工業高校との交流活動に繋がってほしいなと願っています。職員一同がんばっておりますので、今後ともご指導・応援をよろしくお願いいたします。

新任事務長としての対馬高等学校

対馬高等学校 木下公朗



まずは、本校の紹介をしたいと思えます。

明治38年6月に本校の前身である「上下県郡総町村立対馬中学校」が創立され、それ以来、長い歴史と優れた実績を重ね、来年度、創立110周年を迎えることとなります。

校訓「至誠剛健」は、まごころを持ち、強くすこやかで努力を怠らないという意味ですが、これは、雨森芳洲の「互いに欺かず、争わず、真実を以って交わる」という「誠信の交わり」の思想を感じ取ることができます。（今年度復活した「朝鮮通信使行列」を写真でお知らせしようと思いましたが、台風の影響で中止となってしまいました…。）

平成15年度に本校に設置された「国際文化交流コース」は、全国の公立高校で唯一、韓国語を学べるコースであり、韓国の学生とも交流を行っています。自分自身、韓国は行ったことのない国ですが、せっかく対馬高校に赴任したので一

度は訪れたいと思っています。

「年々歳々 花相似たり 歳々年々人同じからず」唐の時代の詩人、劉希夷（りゅうきい）の「白頭を悲しむ翁に代わりて」と題する詩の一部で、「寒い冬が終わって春になると、昔と同じように花は美しく咲くけれど、一緒にこの花を見た人はもはやこの世にはいない」とか「毎年美しい花は同じように咲くが、この花を見る人々は毎年代っているのだ」という、悠々たる自然に対する人間の生命のはかなさ、その無常を表現したものと思われます。新年度の学校特有の季節を表現しているものとして、始業式の折に校長先生が生徒たちに紹介されました。



学校は、様々な行事があり、特に、新学期（春）というのは、新鮮で新たな出会いがある季節です。私自身も新入生と同様に、入学式、PTA総会等々、バタバタしながらも新たな気持ちでスタートを切ることができました。生徒たちのために何ができるのかを考えながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。



子どもたちの輝かしい未来のために

長崎県高等学校長協会 会長 米倉源藏
長崎県立長崎東高等学校 校長

校長としての私が大切にしてきた言葉があります。それは、昭和の教育者である森信三が残した次のような言葉です。

「教育とは流れる水に文字を書くようなはかない仕事なのです。しかし、それをあたかも、巖壁にノミで刻みつけるほどの真剣さで取り組まなければなりません。教師がおのれ自身、あかあかと生命の火を燃やさずにいて、どうして生徒の心に点火できますか。教育とはそれほど厳粛で崇高な仕事なのです。民族の文化と魂を受け継ぎ伝えていく大事業なのです。」

私がこの言葉と初めて出会った時、教育と向かい合う凄まじい気迫と情熱を感じ、魂を揺さぶられる思いがしました。それ以後は、私にとって自らを戒める言葉であり、勇気づけてくれる言葉でもあります。教育は「はかない仕事」であるが、「巖壁にノミで刻みつけるほどの真剣さ」で取り組まなければならない、という教えは、教育の本質と、教師としての在るべき姿を極めて的確に指し示しているように思います。この言葉を噛みしめるとき、教職の重さと尊さを改めて思い知らされ、身が引き締まる思いがします。

ところが、今年の夏、この言葉の意味を改めて考えさせられる事件が発生しました。本県の高校生が同級生によって殺害されるという大変衝撃的な事件でした。10年前に小学生が同様の事件を起こして以来、二度とこのような悲劇を繰り返してはならない

という誓いの下に、様々な取組を重ねてきたにもかかわらず、残念ながら事件は再び起こってしまいました。

我々教育に関わる者にとっては、今でも心が痛み胸がつかえるほどのショッキングな出来事であり、我々のこれまでの取組は一体何だったのか、と無力感さえおぼえます。どう取り組んでも今回のような事件を無くすことは無理なのではないか、と諦めにも似た思いもこみ上げてきます。しかし、立ち止まっただけは何も変わりません。それこそ「教育とは流れる水に文字を書くようなはかない仕事」であるという思いに立って、教育に携わる者すべてが身を奮い立たせ、一歩ずつでも状況を前進させなければ、子どもたちに最高の教育をしていくことはできません。すべての教職員が、教育のはかなさ故の崇高さを十分に承知したうえで、子どもたちに対する心からの愛情を持って、我が身を粉にする覚悟で真剣に教育にあたらねばなりません。

子どもたちは、たった一度の人生の、かけがえない学びを、今それぞれの学校で積んでいます。学校教育に身を置く者として、教員、事務職員の区別があっても、子どもに対する愛情に違いはありません。共に手を取り合って、目の前の子どもの健やかな成長と輝かしい未来のために、教育という大事業に一致団結して取り組んでほしいと願っています。そのことによって、本県教育への信頼は再び揺るぎのないものになると信じています。今年度をもって現職を退く身として、その思いだけは伝えておきたいと思います。

編集後記

この原稿を書く頃のある朝、久しぶりに自転車で通勤途中、お馴染みの散歩用の通路にさしかかると先日までの雑然とした景色が一変し、雑草はきれいに刈り取られ、まだ背丈の低いコスモスの若い株が通路沿いに整然と植えられていました。ふと思うことがありました。このコスモスを植えてくれた人たちはきっと、この先満開になったコスモスの見事な景色を思い浮かべながら汗を流したんだろうなど。日頃、つい目先のことばかりに気を取られながら仕事をしがちですが、その先にあるすばらしい成果や他の人が喜ぶ姿を目に浮

かべながら働くことができれば、私たちが今よりもっと仕事に喜びを感じることができるでしょう。

今回、事務長会報「ばってん」の編集にあたりましては米倉校長先生をはじめ、副会長様、来春御勇退される方、新任の方々に執筆をお願いしましたところ快くお引き受けいただき、おかげでスムーズに編集が進みましたことを心より感謝申し上げる次第です。

最後になりましたが、この「ばってん」が今後も末永く皆様にも愛される広報誌となりますよう御協力と御指導の程、よろしく願いいたします。

(F・M)